

教師のかかわり方

～ビジョンを持ってかかわる～

ポイント3



学級担任は子どもたちにとって長い時間を一緒に過ごす一番身近な大人です。正しいモデルを示すことはもちろん、担任として「どういう人に育ててほしいか」「どんな学級経営をしたいのか」など、長期的・短期的ビジョンを明確に持つことが大切です。そして、そのために担任として何ができるのかを具体的に考えていきます。

子どもたちは未来を担う大切な存在です。私たちは、そんな子どもたちを正しい方向へ導くという大きな役割を担っていることを常に忘れず、ともに過ごす日々がかけがえのないものになるよう努力していきたいものです。

●一貫性を持つ●

教師の元気、笑顔は学級のエネルギーの源です。しかし、「ここぞ」というときには毅然とした態度で臨みます。何がいけないかをしっかりと伝え、指導がぶれないようにします。特に人を傷つける言動や暴力、学習する権利の妨害など人権侵害にかかわる問題は見逃してはなりません。

●子どもを認める・ほめる●

直接ほめる、全体の中でほめる、個人ノートなどでほめる、通信でほめる、第三者にほめてもらう、家庭に伝えてほめるなどほめ方の工夫をします。



●長期・短期ビジョンの例●

小学校の例（5年生）

1年間：高学年としての自覚を持ち、全校児童がよりよい生活を送るために協力し合って活動することができる。

1学期：学級の友達と楽しく活動するとともに、委員会の役割を理解し、活動できる。

中学校の例（1年生）

3年間：社会に出たときに人から信頼され必要とされる人間となることを目指し、自分の力で進路を切り拓くことができる。

1年間：中学校の生活に慣れ、きまりについて理解して中学生として自覚ある行動ができる。

特別支援教育の視点より

核家族化・少子化・子どもたちの多忙化などで、子どもたちは、様々な人々とふれあう機会が少なくなり、社会的な体験が不足しがちになっています。そのような中で、学校教育においても体験活動を重視し、社会性を育てていくことが求められています。人とかがかわることが苦手であったり、自分流で人とかがかわったりするため、うまく人間関係を築きにくい子どもたちを含め、すべての子どもたちが認め合える好ましい人間関係を目指した学級経営を充実させることは、とても大切なことなのです。

また、子どもたち一人一人の違いを認め合える学級集団の中でこそ、一人一人が自分らしさを表現することができ、過ごしにくさを緩和することができます。心地よい、快の刺激は脳を発達させます。「いがいがことば」（心が痛む言葉）を減らし、「ふわふわことば」（心が温まる言葉）に包まれた、温かい教室でこそ子どもは持てる力を発揮し、さらに力を伸ばしていくことができるのです。